

第四章 有田川水系

一、流域 地形 本流域ハ紀伊中部ニ位シ和歌山縣伊都郡ノ一部ト有田郡ノ大部ニ互リテ其ノ形東西ニ長ク南北ニ短ク面積三〇方里ヲ占ム。地勢ハ大體東ヨリ西ニ向ヒテ傾斜シ紀伊大和ノ國境山脈ハ其ノ東部流域ヲ限リテ最高ク熊野川流域ト界シ南ハ有田日高ノ郡界山脈ニヨリテ劃セラレ日高川流域ニ接ス北ハ紀和山脈ノ支脈ニシテ其ノ東端最高キモ西ニ向ヒテ漸次低下シ那賀有田ノ郡界ヲナシ河口ニ至リテ終ル。本流域内ハ急峻ナル山嶽重疊シ平地ハ下流沿岸ニ少域ヲ存スルニ過キササルナリ

地質 秩父古生層白堊紀層中生層ヲ主トシ下流沿岸ニ多少ノ沖積層アリ。其ノ分布狀態ヲ見ルニ略河流ニ平行シ北部ハ秩父古生層ニ蛇紋岩ヲ交ヘ中部ハ白堊紀層ニシテ石灰岩ヲ交ヘ南方ノ一帯ハ中生層ヨリ成ル

林野狀態 流域ノ殆ト全部ハ山林ニシテ耕地ハ至テ少ク全面積ノ約四ばーせんとニ過キス。而シテ森林ノ分布ヲ見ルニ全流域ヲ通シ針濶混濬林最多ク就中高野山奥ノ院附近及支流湯川川五村川ノ上流ナル域ヶ森山附近ニ散在セル官林ニハ古來斧鉞ヲ加ヘサル老樹繁茂シ其ノ狀態

方ニ直流シ箕島ニ於テ紀伊水道ニ注ク。此ノ流路約二三里トス

本川ハ安諦村字梁瀬板尾八幡村字清水附近ニ於テ耕地ニ接スレトモ他ハ概ネ深溪ヲナシ岸高ク兩岸ノ山勢急ニシテ絕壁諸所ニ峭立シ屈曲多ク流下勾配稍急ナリ河床ハ概ネ砂礫ニシテ諸所ニ岩盤ヲ見ル。兩岸ノ地盤ハ概ネ堅硬ニシテ崩壞等ノ憂更ニナシ。出水ニ際シテハ洪水位高ク粟生附近ニ於テハ二〇餘尺ニ達スル所アルモ河床ノ移

有田川流量表

灌溉用水ノ關係アリ其ノ期間ハ六月一日ヨリ十月十五日迄ニシテ引用水量ハ五二個ナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量					
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最小		
二五二	五七	有田川	和歌山縣有田郡岩倉村粟生或山	一八六	大正八年 九六四〇	二五三	二二〇	二六	一〇四	五六	一五二	二二	六二	五六
					大正九年 一〇三〇〇	二六六	一六七	一〇七	九〇	五三	一三二	八九	五七	四八
					大正十年 一〇三〇〇	二九五	一八六	一〇	九二	一〇〇	一五八	一〇一	五九	四九
					大正十一年 一三六〇〇	二七五	一八六	一一	六三	五七〇	一四七	一〇一	五九	四九
					平均									

三、水利及治水 沿岸耕地甚タ少ク水力ヲ利用シ得ヘキ範圍約一三里ノ間ニ存在スル灌溉用水ノ取入口ハ僅ニ八箇所ニ過キス此ノ總反別一〇二町歩ニシテ毎年五月中旬ヨリ九月中旬迄ノ利用ニ止ル

地目面積表

河川名	地目		山林		合計
	耕地	原野	針葉樹林	混交樹林	
有田川	面積(方里)	同百分率	面積(方里)	同百分率	
	〇・〇〇	二・六	三・三	一・五	二・七
	同百分率	二・六	三・三	一・五	二・七
	〇・〇〇	二・六	三・三	一・五	二・七
	同百分率	二・六	三・三	一・五	二・七
	〇・〇〇	二・六	三・三	一・五	二・七
	同百分率	二・六	三・三	一・五	二・七
	〇・〇〇	二・六	三・三	一・五	二・七
	同百分率	二・六	三・三	一・五	二・七

良好ナリ針葉樹林ハ之ニ次イテ各所ニ散在シ松樹ヲ主トス潤葉樹林ニアリテハ其ノ分布最少ク栗梅檜等ノ有用材ハ既ニ伐採セラレ雜木ニ松樹ヲ交ヘタル小樹繁生シ其ノ狀態良好ナラス然レトモ近時植林獎勵ノ結果之カ經營ヲナスモノ多キヲ以テ將來ニ於テハ良好ナル狀態ニ向フヘシ氣象狀態 雨量ハ下流部ニ於テ一、五〇〇耗内外ヲ保チ山間部ニ至ルニ從ヒ漸次増加シ八幡村大字清水附近ニ於テハ二、〇〇〇耗内外ニ達ス。氣温ハ山間部ニ於テ平均一五度内外トス

二、河川狀況 本川ハ水源ヲ高野山奥ノ院ニ發シテ南ニ向ヒ花園村ニ入りテ西南ニ轉シ八幡村大字清水ニ於テ左支流湯川川ヲ合セ西ニ轉シ南ニ折レ岩倉村大字粟生ニ至リテ左支五村川ヲ容レ再ヒ西ニ向ヒテ屈曲漸ク甚シク修理川ヨリハ西北ニ向ヒ金屋ニ至リテ右支早月谷川ヲ合セ西

動變化ハ一般ニ少シ 水力ヲ利用シ得ヘキ範圍内ニ於ケル河川勾配左ノ如シ

- 自新子 至清水 (約一四、〇〇〇間) 約一〇〇分ノ一
 - 自清水 至沼 (四、五〇〇間) 一一八分ノ一
 - 自沼 至粟生 (五、七二三間) 一七六分ノ一
 - 自粟生 至修理川 (五、〇五六間) 二一八分ノ一
- 本川流量變化ノ概況ハ次ノ如ク略日高川ト同様ナリ

流材ハ上流ヨリ行ハレ其ノ數量多シ城山村大字二川迄ハ管流トナシ二川ニ於テ筏ニ組ミ河口箕島町迄流下ス筏ノ大サハ幅八尺長サ三十間ニシテ管流ハ上記ノ區間ノ外石垣村迄流下シ得レトモ特ニ許可ヲ受クルノ要アリ。尙

流材ハ灌溉期間ヲ除ク外隨時流下スルヲ得ヘク其ノ年額數量ハ略左ノ如シ

- 大正五年 一、三八六、五四七才
 - 大正六年 一、九二九、六三五才
 - 大正七年 三、四八六、三四七才
 - 大正八年 二、一七〇、七八〇才
 - 大正九年 二、二四八、三〇三才
- 漁業トシテハ毎年六月ヨリ十一月迄ノ間ニ於テ結ノ産アリ。悪水其ノ他ハ全クナシ

有田川水力地點表

順位ニ()ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水路	面積	能發電	年平均馬力數	等級
九九六	有田川	番外	和歌山縣伊都郡花園村北寺	有田郡安論村井谷	湯水 二五 低水 四四 平水 六二	*三〇〇	一、四六五 二、〇六五	三、五〇〇	四、二二	一〇〇・〇 九四・七 八五・〇	一、八七 一、七五 一、五五	乙
(九九七)	有田川	一	和歌山縣有田郡八幡村三田若宮	同 沼郡 八幡村 鮎原	湯水 七六 低水 一三三 平水 一八八	二〇一	一、六九六 二、九六七 四、一九四	三、一七〇	三、八二	一〇〇・〇 九四・七 八五・〇	一、六六 二、八〇 三、五五	甲
九九八	同	二	和歌山縣有田郡八幡村楠本岨岨	同 郡 岩倉村 岩野河川上	湯水 八八 低水 一四九 平水 二一九	一七〇	一、六六一 二、八一二 四、一三三	三、〇〇〇	一、四八八	一〇〇・〇 九四・七 八五・〇	一、六六 二、八〇 三、五五	乙

地點數六其ノ馬力數一二、二二〇ニ達ス

水力地點ノ説明

順位九九六 左岸ニ取入レ河川ノ屈曲ヲ利用ス。灌溉用水四箇所(反別四五四二町步)ニ對スルモノアリ利用ニ際シ之ニ水量六箇ヲ分水スルモノトス

順位九九七 取入口ニ堰堤ヲ築キ水位ヲ約一〇尺高メテ右岸ニ取入レ河川ノ屈曲ヲ利用ス。隧道約一、〇五〇間、開渠約一、二〇〇間ナリ。用水關係ナシ(南海水力電氣株式會社ニ許可)

順位九九八 主トシテ河川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ右岸ニ取入レ隧道約一、四〇〇間、開渠約二、〇〇〇間トス。灌溉用水一箇所(反別二五一八町步)ニ對シ水量三箇ヲ分水スルノ必要アルモ利用水量ハ流域一方里ニ對シ順位二五二號測水所ノ流量ヲ以テスレハ是等用水ニハ何等ノ影響ナキモノト認ム

以上三地點トモ流木盛ナルヲ以テ之カ計畫ニ對シテ相當ノ方法ヲ講シ流下ニ支障ナカラシムルノ要アリ

本川ニハ八幡村大字三田ヨリ石垣村大字修理川ノ間ニ南海水力電氣株式會社ノ水力地點四アリ、就中修理川ニ於ケル地點ハ既ニ發電所ヲ設ケ川口ニ發電所ヲ設ケモノハ目下工事中ニ屬ス

四、水力地點 選定水力地點數三、其ノ平水時ニ於ケル馬力數一〇、三九二トス。右ノ中一箇地點ハ本調査期間中ニ於テ水利使用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來ニ於テ利用シ得ヘキモノニ地點六、一九八馬力ナリ。之ニ許可水力地點(支流ノ地點ヲ除ク)ヲ加算スルトキハ本川ニ於ケル總水力

第五章 吉野川水系(紀州)

第一章 概説

地形 本川ハ上流ヲ吉野川ト云ヒ水源ヲ大和ノ中部ニ發シテ西流シ紀伊ニ入リテ紀ノ川ト稱セラレ紀伊水道ニ注クモノニシテ流路約三四里、流域面積一一一方里ナリ大臺ヶ原山ハ其ノ東南ノ水界ヲナシテ高ク海拔一、六〇〇米ヲ超エ之ヨリ西方ニ分レテ熊野川トノ分水嶺ヲナセル山脈ニハ伯母嶽、山上嶽、大天井嶽等ノ高峯アリ此ノ山脈ハ尙西ニ馳セ紀伊ニ入りテ長峯山脈ヲ形成シ以テ紀ノ川ノ南部ヲ擁シ有田川流域トノ分水嶺ヲナス。大臺ヶ原山ヨリ伊勢國境ニ沿フテ北方高見山ニ至ル連嶺ハ本流域ノ東部ヲ劃シ又三畝山脈ハ高見山ヨリ西方ニ連互シテ吉野川流域ノ北部ヲ限リ木津、大和ノ二川ト界シ更ニ紀泉國境ニ馳セテ和泉山脈トナリ紀ノ川流域ノ北部ヲ劃ス。吉野川ノ上流地方ハ峻峻ナル山地ニシテ山高ク谷深ク下流部ニ至リテ稍開ケ諸所ニ丘陵臺地ヲ形成シ紀ノ川トナリ初メテ河岸平坦ナルヲ見ル

地質 吉野川流域ハ北方分水嶺ニ沿ヒテ片麻岩東西ニ